

仙台市青葉区

# 北六地区

## 平成風土記

～北六地域界隈の史跡・施設めぐり～

北六町内会

文責：鈴木 守義

# 北六地域界隈の史跡・施設めぐり

～目 次～

- その1 1. 北六番丁小学校  
2. ジャーナリスト・歴史家 藤原相之助邸「非想庵」跡
- その2 1. 仙台軌道（軽便っこ）跡  
\*東照宮駅  
\*仙台鉄道跡橋桁  
2. JR 仙山線と請願駅・東照宮駅
- その3 1. 福澤神社  
2. 宝蔵院跡と宝蔵院橋  
3. 少年鑑別所跡
- その4 1. 北六番丁コミュニテイ児童館・北六派出所  
2. 朝日神社  
3. 二本の杉と二本杉通り
- その5 1. 松尾神社  
2. 街の搾乳所  
3. 東照宮の「御仮宮」「御旅所」跡
- その6 1. 東六番丁  
2. 東六番丁小学校  
3. ご神木「エドヒガンザクラ」  
\*宮町に関する出来事
- その7 1. 宮町（御宮町）  
2. 武家屋敷「安藤家」住宅  
3. 新常磐町跡（旅籠町）
- その8 1. 四ツ谷用水本流（桜川）跡  
2. 梅田川  
3. 翠ヶ岡地区
- その9 1. 仙台大回向発祥の寺 万日堂  
2. 万日堂境内
- その10 1. 「仙台東照宮」と宮町  
2. 東照宮の配置
- その11 1. 東照宮と4つの寺院  
2. 仙岳院  
3. 延寿院  
\*宝蔵院橋
- その12 1. 五城中学校  
\*五城中の「いろはもみじ」  
2. 仙台森林管理署
- その13 1. とちのき公園  
2. 仙台児童相談所  
3. 一本松・高山樗牛の「瞑想の松」
- その14 1. 常盤台霊園（旧陸軍墓地）  
2. 二の森墓所（御廟）
- その15 1. 城下町の形成  
2. 丁と町  
3. 北六番丁の桜並木と桜橋  
4. 北の守りとしてのわが町
- その1～その15までの史跡・施設の所在「地図」



# 北六地域界隈の史跡・施設めぐり その10

～北六小から北の方、北六番丁通り以北を散歩しました～

## 1. 「仙台東照宮」と宮町

青葉区東照宮1丁目6-1

仙台東照宮が位置する仙台市北東部の丘陵は、かつて玉手崎と呼ばれ遠く海を望む風向明媚な場所であった。この地は徳川家康が葛西大崎一揆視察の帰途、仙台藩祖伊達政宗公と宿陣された天神社があった家康ゆかりの地と伝えられる。

(玉手崎・玉田崎・田歌崎と呼ばれて古くから天神社があった)城下の長(北東)の方角にあたる小田原天神社の跡地(鬼門の方)である。

仙台藩二代藩主伊達忠宗は、東照大権現(徳川家康)を伊達家の守護神として祀るため、慶安2年(1649年)、東照宮造営を三代将軍徳川家光に願い出て許しを得、承応3年(1654年)に創建された。本殿や唐門の屋根瓦には徳川家の葵の門がある。参道の石段の両脇には伊達家家臣団の奉納した大きい石灯籠が並んでいる。石段上の隨身門は入母屋造り銅板葺き、本殿・唐門・透塀・隨身門・石鳥居は、国の重要文化財である。手水舎は県指定文化財でもある。

石鳥居の御影石(花崗岩)は岡山産(備前国大島)で、二代忠宗の奥方振姫は岡山生まれで徳川の養女となり伊達家に嫁いだことにより郷里の石を用いたとされる。

昭和10年8月6日早朝に不慮の火災により幣拝殿が焼失したが昭和39年11月に原型に復元された。

鳥居を進むと太鼓の「御神橋」がありこの流れは根添堀と呼ばれ梅田川の杉下堰から導入された小川の後が見える。

宮町は、東照宮の門前町「お宮町」「権現町」として栄え町方24町の一つでもあった。宮町は上御宮町・下御宮町の2区からなり4別当寺と町屋敷が街路をはさんで延びている。「封内風土記」によれば宅地117、町民164人とあり「仙台鹿の子」には元禄8年(1695)には門前町102軒、1軒につき500文づつの御用捨田畑が付けられたとある。

\*明暦元年(1655)より9月17日を祭典日と定め「仙台祭」と呼ばれ山鉦を出し練り歩いた。文化文政の最盛期には約70台の山鉦が出たという。

現在では家康の命日4月17日に恒例の例祭として斎行されている。

\*東照宮の由来については石鳥居の脇に立てられている「東照宮の由来」に目を通しては如何ですか。

\*「隨身門」とは左右に帯刀し弓矢を持った隨身像が安置されており、寺院で言う仁王門にあたる。中央が通り間となり両開きの楼門形式の八脚門で、屋根は銅板葺き入母屋造りである。2階正面中央に、妙法院宮堯然親王筆の「東照宮」の扁額があるが裏面銘文には承応元年(1652)作とあるとのこと。

\* (参考) 日光東照宮

徳川家康を祀った神社「東照大権現」

元和2年4月17日(1616)家康死去「久能山東照宮」に神として祀る

元和3年4月17日(1617)日光山に遺骸を移す

寛永13年(1636)三代将軍徳川家光による日光東照宮の大造営

## 2. 東照宮の配置

石鳥居をくぐると御神橋に石畳、石段(表参道四十九段)に附石灯籠34基、灯籠は伊達家諸臣が奉納したもの、正面に隨身門と袖塀、左に神楽堂、右に神輿堂、また石段を上がると石玉垣、左に手水舎、そして拝殿、透塀の中に唐門、本殿が配置されている。右横に授与所・社務所・参集殿がある。東参道の下に古峰神社が鎮座している。また、春の例大祭が近づくと古態を伝える伝統神楽の大太鼓、小太鼓、笛、手平鉦とともに舞手の練習の音が聞こえてきます。

(文責・鈴木)

# 北六地域界隈の史跡・施設めぐり その11

～北六小から北の方、東照宮橋付近を散歩しました～

## 1. 東照宮と4つの寺院

寛文4年(1664年)の城下絵図を見ると東照宮が造られたとき、別当院として左側に仙岳院と延寿院、右側に延命院と宝蔵院があった。他に成就院・吉祥院もあったといわれている。現在は仙岳院と延寿院のみである。宝蔵院は橋の名として残っている。

## 2. 仙岳院(眺海山康国寺仙岳院と号す)

青葉区東照宮1丁目1-16

承応3年(1654年)の東照宮勸請の際、二代藩主伊達忠宗が別当寺(東照宮を管理する寺)として建立した。開山は晃海僧正(天海僧正の高弟)を迎え天台宗比叡山延暦寺を本山として開山された。仙台藩領内の寺院の中で最高の寺格であった。観音堂の本尊は釈迦三尊(釈迦如来・文殊菩薩・普賢菩薩)である。

十一面観音菩薩は、「小萩観音」と呼ばれて、仙台三十三観音11番札所になっている。藩政期には最高の寺格持ち平泉中尊寺をも管理していた。境内にある瑠璃殿(宝物殿)には東照宮の本地仏であった薬師如来と日光月光両菩薩と薬師十二神将などが祀られている。明治時代に至り神仏分離により東照宮と別れる。慶応4年(明治元年)7月2日より10月12日まで北白河宮能久親王(輪王寺宮公現親王)御座所(宿泊所)となったことでも知られている。

山門前の「寺記」と御座所の碑及び「仙台市指定樹木記」をご覧ください。仙台市指定樹木の樹齢320年の「笠松黒松」がある。本堂は仙台市登録文化財である。

## 3. 延寿院(天台宗眺海山延壽院(浄圓房))

青葉区宮町五丁目6-18

万治3年(1660年)仙岳院の傍院として創建された。本尊は「阿弥陀如来」を祀っている。文政元年(1818)5月に焼失したが文久元年(1861)に再建され、同時に浄円坊の木彫像一体を造り「浄円房大権現」として祀られている。

浄円房大権現は、元禄の頃の「浄円」と言う名前の修行僧で韋駄天(いだてん)のような足を持ち師が臨終の時に好物の最上の豆腐を所望したところ、即座に最上まで往復し豆腐を持ち帰り師に喜ばれたと伝えられた人で、また76歳で亡くなるまでに麦飯を釜にかけてそれが吹き上がらないうちに出羽の羽黒山まで238回も往復したと言われている韋駄天のごとき走力者であるという。

境内には本堂と地藏堂(仙台市指定文化財)があり、足の病を治す靈験があるといわれ「わらじ」等奉納されている。11月28日の浄円の命日には護摩を焚き祈禱が行われているとのこと。延寿院はかつて宝蔵院があった場所にある。門前の「寺記」もゆっくり目を通してはいかがでしょうか。

\*宝蔵院橋——宝蔵院は梅田川に架かる小さな橋の名にその名をとどめる。旧仙台鉄道の後の細い道路で延寿院の南にかかる橋と北六通りから中江に向かう橋の2箇所を宝蔵院橋と名づけられている。

(文責・鈴木)